

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「高島屋、循環型のモノ作りプロジェクト始動 日本環境設計と提携」
- 2) 「アダストリア、マイクロプラ海洋流出を防ぐ“洗濯ネット”を発売」
- 3) 「セコム、アプリで高齢者見守り」

1) 「高島屋、循環型のモノ作りプロジェクト始動 日本環境設計と提携」

高島屋は2日、日本環境設計が運営する衣料リサイクル「ブリング (BRING)」と提携し、循環型衣類の販売および回収プロジェクト「デパート デループ (DEPART DE LOOP)」を開始した。

日本環境設計のケミカルリサイクル技術による再生ポリエステル素材（一部バージンポリエステルを含む）を使った婦人服、紳士服、子ども服、リビング用品、クリエイターズブランドとのコラボTシャツなど約60アイテムを高島屋各店と公式オンラインサイトで販売する。購入後、不要になった商品は高島屋の購入店舗で回収し、再び再生ポリエステル樹脂の原料として活用する。

2～15日には高島屋新宿店と大阪店でポップアップショップと衣料品の回収キャンペーンを開催する。会場では、クリエイターズブランドとのコラボTシャツと「ブリング」のオリジナル商品を販売する。コラボブランドは「ミュラー オブ ヨシオクボ (MULLER OF YOSHIOKUBO)」「ヨシオクボ (YOSHIOKUBO)」「ウジョー (UJOH)」「コーヘン (COOHEM)」「08サーカス (08SIRCUS)」「バウム ウンド ヘルガーデン (BAUM UND PFERDGARTEN)」「レルディ (RELDI)」「ターク (TAAKK)」。また回収ボックスを設置し、素材やブランド問わず不要になった衣料を消費者から集める。回収した衣料のうち、ポリエステル製品はリサイクルし、そのほかの素材はブリングの提携先を通じて可能な限りリサイクルする。

2日に新宿店で行われた記者発表会で高島屋の橋祐介バイヤーは「衣料品は年間9200万トンが廃棄されている。衣料品を売り上げの主軸とするわれわれは、この問題の当事者であると認識し、同プロジェクトを立ち上げた。一度で終わらせずに、今後も商品開発を続け、地下資源（石油など）に依存しない新たなビジネスモデルを推進していきたい」と話した。

(2021/06/02 WWD JAPAN)

環境問題に着目し、リサイクルをはじめとした活動が盛んになっている今、こういったサイクルを生み出すのはとても重要だと思う。服の回収ボックスも徐々に増えてきたが、ブランド問わずに回収できるのは珍しいのではないだろうか。ただ、価格帯やデザイン的にも購入できる層は限られてしまっているように感じるので、これからの衣料品の形として浸透させるにはやはり購入層の広い大手ブランドの力が重要になってくるのではと感じた。今後の展開にも注目したい。

2) 「アダストリア、マイクロプラ海洋流出を防ぐ“洗濯ネット”を発売」

アパレル大手のアダストリアは5月28日、マイクロプラスチックを含む繊維くずによる海洋汚染問題への対応として、繊維くずの流出を抑制する洗濯ネット「FIBER HOLD

BAG（ファイバーホールドバッグ）」を開発したと発表した。グループのオンラインストアや一部店舗で販売する。価格は1540～2200円。

通常の洗濯ネットよりも細かい網目の0.05mmの生地を表面に使用し、洗濯ネットの外に微細な繊維くずが出ない仕様にした。洗濯ネットを使用しない場合と比較して平均で80%の流出抑止効果があることを、同社独自の試験で確認したという。さらに、内側に網目の大きな生地をフィルターのように入れ二重構造にすることで、衣服と繊維くずが洗濯ネットの中で分かれるほか、上下に配置したファスナーから衣服と繊維くずをそれぞれ取り出しやすい構造とした。

同製品は子会社のADOORLINK（同）が展開するライフスタイルブランド「OOu（オー・ゼロ・ユー）」の公式オンラインストアで5月26日から販売を開始。6月からアダストリアのアパレルブランド「niko and ...」「studio CLIP」「BAYFLOW」の一部店舗などでも販売を順次開始する。

近年、プラスチックごみによる海洋汚染の拡大が問題視されており、2050年には海洋プラスチックごみが魚の重量を超えるとも予測されている。

この海洋プラスチックごみの35%が洗濯由来の繊維くずといわれている。繊維くずのうちポリエステルなどのプラスチック由来のものは、海洋中に留まってしまうため、食物連鎖を通じて生物の体内に取り込まれてしまう恐れが指摘されていた。

こうした海洋汚染問題を解決するため、同社は繊維くずの流出を抑制する洗濯ネットを開発した。また、洗濯ネットを洗濯時に使用することは衣服同士の摩擦を防ぎ、衣服を長くきれいに保つことにもつながるといふ。同社では、着用期間が1年延びると日本全体で4万トン以上の廃棄物削減につながるという調査結果もあるとして「洗濯ネットの販売を通じて、こうした側面でも環境負荷の低減に貢献できると考えている」と述べた。

（2021/06/01 環境ビジネスオンライン）

家庭で個人ができる取り組みのためのグッズが、多くの人が手に取るブランドから販売されることは効果的だと思う。マイクロプラスチックの排出を減らすのも大きな目的だが、この場合は「服が長持ちする」ということにメリットが感じられると思うので、そのオマケとして環境にも優しいという結果が得られれば一石二鳥だ。目に見えるプラスチックの削減は取り組みやすいが、このように目に見えないゴミの排出を家庭でも簡単に減らせるような、もっと突っ込んだ取り組みができるアイテムが多く登場してくれれば嬉しい。

3) 「セコム、アプリで高齢者見守り」

セコムは高齢者の見守りサービスで、米アップルの腕時計型端末「アップルウォッチ」と連携する。高齢者の自宅に設置した防犯センサーのデータとアップルウォッチから得たデータを解析し、健康状態や生活の様子などをリアルタイムで確認できるようにする。新型コロナウイルスの感染予防で高齢の親などに会う機会が減っており、見守りニーズに対応する。

セコムは1日にスマホアプリ「いつでもみまもりアプリ」を発売した。アップルウォッチから得られる高齢者の心拍数や歩数などのデータと、セコムが設置した防犯向けのセンサーなどから得られる情報を組み合わせ、クラウド上で解析する。

高齢者の日常生活のサイクルを把握することで、夜に眠れていなかったり、外出頻度が減るなどの異状を事前につかめる。遠隔地にいる親族は、アプリで異状を把握して連絡を取

ることができる。追加で温湿度センサーを付ければ、熱中症の恐れがあると通知を受けることもできる。

料金は税別でアプリ利用が月100円、「ホームセキュリティ」と合わせると月4400円からとなる。異常時は警備員が無料で駆け付ける。親族が異変を感じた場合に1回1万円（税別）で駆け付けを依頼できる。

まずはセコムが設置したセンサーのデータのみでサービスを開始し、解析の精度などの性能を高めた後に、今冬をめぐりに本格的にアップルウォッチと連携する予定だ。見守りサービスとは別に、アップルウォッチと従来のホームセキュリティを連携させ、玄関解錠などに用いるサービスも秋をめぐりに導入する予定だ。

セコムは防犯センサーの検知情報を基に高齢者を見守り、警備員が駆け付けるサービスを提供してきた。健康管理のために独自の腕時計型端末を2017年に開発し、屋外での救急通報などに生かしてきた。今回は高齢者の見守りに特化したアプリとなっている。多くのデータを収集できるアップルウォッチと提携することで、見守りニーズを本格的に取り込む。今後は専用センサーを用いてより細やかな見守りサービスも検証する。

3月からは見守りサービス「ココセコム」を刷新し、指定したエリアの出入りを管理者のスマホに通知するサービスを始めた。全地球測位システム（GPS）を備えた端末で、高齢者が自宅から離れたことを家族が確認できる。

セコムは30年までの長期ビジョンで「あんしんプラットフォーム構想」を打ち出し、高齢者見守りや防災の分野で外部との提携を掲げている。尾関一郎社長は「これからの警備や見守りには、駆け付けに加えて技術力が求められる。見守り分野ではヘルステック企業にも注目したい」と語る。

（2021/06/07 日経MJ）

ご高齢の親を持つ方にとっては安心できるサービスだ。もちろん本人も自身の健康管理を手間なく行うことができ安心だが、アップルウォッチの操作を覚えられないといけないうので少しハードルが高いと感じる方もいるかもしれない。精密機器なので24時間肌身離さず付けているわけにもいかず、風呂など危険性が高く一番管理しておきたい場所で使用できないのではないかと不安要素も大きい。今後の技術進歩で操作も簡単で24時間無意識に管理できるシステムができることを期待したい。